

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	高周期典型元素不飽和化合物の化学：新規物性・機能の探求	研究代表者名	時任 宣博
-------	-----------------------------	--------	-------

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア( ) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
化合物は興味あるものが数多く作られている。新たな分子の合成は新しい利用分野の展開を期待させるが、合成だけでは趣旨に反する。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ( ) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
化合物の物性評価が不十分である。合成のみに終わらせない工夫が必要。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：  
物性評価の研究者が不足している。共同研究者として、固体物性の研究者を加えると新しい展開が出来る可能性がある。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
合成は順調に進んでいる。物性研究では困難が見られる。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア ( ) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
現メンバー間での連携は保たれているが、研究全体としては、固体物性の研究者を組織に加え、物性評価を強化することが望まれる。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア ( ) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：  
合成の立場からは問題はない。

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

##### 総合的な評価意見：

現時点で、分子合成グループは十分に計画に沿った成果を挙げており、特にユニークな分子の合成に成功している点は高く評価できる。全体の計画の中で、物性・機能の解明と実証は更に研究体制を強化することも含め、今後の展開に期待したい。